

評価者	都市整備部長	伊藤 昌裕
-----	--------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針

総合計画上の位置付け	分野	下水道・河川	施策の方針	水辺環境の整備・創出・管理
目標とすべきま ちの姿	局所的な集中豪雨等が生じても、河川は氾濫することなく市民は安全に生活しています。また、河川津波遡上対策により、津波被害がほとんど発生しない状況となっています。水辺には動植物が生息し、市民の憩いの場となっており、景観にも配慮した観光都市にふさわしい水辺環境となっています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	25.3%	平成27年度	27.8%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性

お金の使い方		お金の使い方		<p><妥当性の分析></p> <p>お金の使い方、仕事の効果ともに「ちょうどよい」と答えた割合が平成27年度は53.2%と、選択肢の中では最も多くなっている。次に多いのはお金が「足りない」、効果が「不十分」の6.7%、次はお金は「ちょうどよい」、効果が「不十分」の2.3%であり、市民意識では、下水道・河川に対しお金はちょうどいいという印象が強い状況にあると捉えることができる。</p> <p>お金の使い方と仕事の効果両方が「ちょうどよい」と答えている人の割合は、施策の方針等全54件の中では比較的高い値となっており、経年的には、これらの傾向にあまり大きな変化は見られない。下水道・河川の取組が市民生活に直結しており、認知度が高い事が主な要因と考えられる。また、さらなる効果を求められている。</p>				
仕事の 効果	必要以上の効果	使いすぎ	ちょうどよい		仕事の 効果	必要以上の効果	使いすぎ	ちょうどよい
	ちょうどよい	0.9%	0.7%			0.6%	0.9%	0.1%
	効果不十分	0.5%	52.4%			0.7%	0.7%	53.2%
		1.4%	1.7%	10.0%		0.7%	2.3%	6.7%

平成26年度

平成27年度

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成26年度	14.7%	52.1%	2.1%	31.1%	100.0%
平成27年度	14.4%	50.9%	1.4%	33.2%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成27年度の目標

河川管理施設維持修繕や維持修繕工事を適切に実施する。
準用河川及び雨水調整池の浚渫については、費用対効果を考えて実施し、機能の確保を図るとともに適正な維持管理を行う。

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	評価対象事業名 事業名	決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
		平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	事業内容	予算規模
都整-10	河川管理運営事業	1,429	1,459	6,176	6,195	0.6	0.6	b	B
都整-32	河川維持補修事業	31,909	15,819	37,279	23,601	0.7	1.0	b	A
都整-33	雨水施設維持管理事業	2,098	1,372	3,632	3,707	0.2	0.3	b	A
都整-50	雨水施設維持管理事業	16,193	13,417	22,880	20,194	0.9	0.9	b	B

(3) 主な実施内容

<p>【主な実施内容】 準用河川神戸川及び砂押川の根固工事を実施した。普通河川滑川や準用河川砂押川の維持修繕業務及び準用河川砂押川や小袋谷川のしゅんせつを実施した。(都整-32) ゲート類の点検業務を実施した。雨水調整池の修繕を実施した。(都整-33) 老朽化した機器が良好に作動し続けるよう、突発的な故障の予防に努めた。(都整-50)</p>
<p>【実施できなかった事業とその理由等】 雨水調整池のしゅんせつは、堆積土砂等が微量であったため、費用対効果を考慮して見送りとした。(都整-33)</p>

(4) 平成27年度の実績の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
<p><上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等> 河川施設の突発的な維持修繕業務や請負工事については、概ね対応できた。雨水調整池の修繕や浚渫については、全施設の現状把握を実施し、費用対効果を考慮しながら、計画的に対応する必要がある。</p>			

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

<p>平成27年度に策定した「社会基盤施設マネジメント計画」に基づき、予防保全型の維持管理を行い、維持管理費や補修更新費の平準化に努める。 維持修繕業務や請負工事については、適切な時期に実施し、良好な維持管理が行えるようにする。また、大雨や台風により被害が出た場合には、突発的な修繕業務が発生する可能性があるため、限られた予算を有効に執行する。</p>

4 平成28年度の目標

<p>河川管理施設維持修繕や維持修繕工事については、適切な時期に実施する。 普通河川、準用河川及び調整池のしゅんせつについては、全施設の現状把握を実施し、費用対効果を考慮して計画的に実施し、機能の確保を図るとともに適正な維持管理を行う。</p>

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ)

整理番号	都整-32	事業名	河川維持補修事業								
指標の内容	準用河川の修繕					単位	m	指標の傾向	↗	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
準用河川において継続的な修繕が必要なため。	目標値	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0				
	実績値	23.0	27.0								
	達成率	65.7%	77.1%								
整理番号	都整-33	事業名	雨水施設維持管理事業								
指標の内容	ゲート類の点検					単位	箇所	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
浸水対策としてゲート類の良好な機能維持が必要なため。	目標値	58	58	58	58	58	58				
	実績値	58	58								
	達成率	100.0%	100.0%								

参考 前年度外部評価結果への対応

<p>鎌倉市民評価委員会からの指摘 ・「河川維持管理」「雨水施設維持管理」とともに、財政状況により十分な対応が出来ていない。計画的・効率的な運用を希望する。 ・河川維持管理協力団体と市の連携が十分に図られていないことは課題である。</p>	⇒	<p>指摘への対応、コメント等 施設の現状把握を実施し、優先順位を付け、計画的・効率的に業務を実施し、限られた予算を有効に執行する。 河川維持管理協力団体と連携できる事業や団体がさらにないか検討する。</p>
--	---	---

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・準用河川神戸川及び砂押川の根固工事を実施した。普通河川滑川や準用河川砂押川の維持修繕業務及び準用河川砂押川や小袋谷川のしゅんせつを実施した。
- ・河川施設の突発的な維持修繕業務や請負工事については、概ね対応できた。
- ・協力団体と連携し、良好な水辺環境を目指し、親しまれる川づくりを図っている。
- ・水辺の環境が比較的变化なく維持されている。
- ・市内の河川が年々良い方向に変化、または維持管理されている。鎌倉の川の水源は鎌倉内という特徴を持つ、それぞれの川独特の美しい景観をみせている。

		評価の内訳					⇒	委員会の評価
取組	↗	0	↘	0	→	8		→
効果	○	1	△	0	—	7	—	

《課題》

- ・緊急対応もさることながら、「河川」「雨水」ともに中長期的計画のスムーズな推進が求められる。
- ・「津波被害がほとんど発生しない状況」に結びつく事業と感ずるものがない。優先順位として、喫緊で修繕が必要な案件が市内にまだどの程度残っているのか明らかになっていない。
- ・安全に関する取組は見えるが、目標にある、動植物の生息や憩いの場に対する取組が見えておらず、今後、こちらの方にも力を入れることが求められる。

《提言》

- ・河川に対して災害発生時の対応などが不明確であり、対応策を明らかにしつつ、災害時の鉄砲水による被害も想定して、引き続き防災対策に力を入れるべきである。
- ・水辺環境の創出をすすめ、鎌倉らしい水辺環境を整えていくことが重要である。
- ・鎌倉には河川敷公園が無いので、安全に水遊びが出来る公園などの整備を検討すべきである。